Obihiro Aoi Gakuen Information
学校法人 帯広葵学園

学園通信

◆2022年（令和4年）1月19日発行　◆Vol.54

故きを温ねて、新しきを知る ～帯広葵学園のあしあと㊹～

平成29年の帯広葵学園：主な事業一覧

学校法人帯広葵学園　理事長　上野 敏郎

平成29年は、帯広葵学園にとって多くの場面で「挑戦の年」する年になりました。既に紹介済みの事業もありますが、箇条書き的に並べて紹介します。

《2月》
○あおいキッズハウスでは、「ベビーダンス教室」を始めました。未就園児の保護者から育児相談を受けたことが事業開始のきっかけでした。
○あおいとりプラスでは、教室開設記念として「異才少年画家・濱口瑛士絵画展」を藤丸デパートを会場に開催しました。濱口君は、「黒板に描けなかった夢」という本を出す東京の当時中学2年生の少年です。私が、この本の出版社を訪問したことが動機となった絵画展でした。

《3月》
○緑陽台保育園の園歌がようやく完成し、卒園式で披露しました。作曲は、元つつじが丘幼稚園の管幹夫園長です。緑陽台保育園は4月から認定こども園に改称する節目の園歌制定になりました。

《7月》
○第7回とかち童謡つりを音更町の文化センターで開催しました。通常は、帯広市文化ホールで開催していました、葵学園が音更町で初めて幼児教育・保育事業に係る記念と決意の意味合いを含む童謡まつりになりました。

《10月》
○「濱口瑛士絵画展」を夕張で開催しました。この開催を記念して夕張市の幼稚園児から高校生まで全員に、瑛士君がイメージする夕張の絵をプリントしたクリアファイルを寄贈しました。

《12月》
○帯広葵学園の園児で支援を必要とする子どもたちが「あおいとりプラス」を利用する時は、個人負担となる利用料は免除する「あおいとりサポート」制度を設置しました。

異才少年画家の濱口さん　即興で作品披露

（平成29年2月12日　十勝毎日新聞）

十勝毎日新聞

発達障害を抱えながら絵画の才能を発揮し、「異才少年画家」と注目される濱口瑛士さん（14）＝東京＝が11日来帯し、帯広市内の藤丸7階で開催中の個展会場で、即興で絵を描くインスタレーションを披露した。ペンを使い、独自の世界観の作品が完成していく様子に、多くの来場者が感心していた。

個展は、14日まで藤丸催しサロン（7階）で開催中。濱口さんは来場者らに拍手で迎えられ、司会者から十勝の印象について尋ねられると、「自然があって心が満たされる」と感想を話した。

濱口さんは普段は消しゴムを使わないといい、ペン1本を手にキャンバスに向かった。すらすらと描きながら、来場者の質問にも回答。「絵は上手ではない」と謙遜しつつ、「自分のすごいところは書き続けられること」と語った。

完成したのは緻密な模様の城を背景にオリジナルキャラクターの「ファル」を描いた作品。テーマは「子供たちの自由」で、「幼いときに友達と遊んだことがないので、その願望も入っているかも」と話した。

会場では濱口さんの著作「黒板に描けなかった夢」の販売もあり、行列ができた。豊頃町の福井一浩さん（69）は「学歴とか関係なく誰もが素晴らしい才能を持っていると感じた。自分は下手の横好きで、写真や俳句など多趣味なことが才能」と笑っていた。

（高津祐也）

キャンバスに絵を描く濱口さん

完成した作品を掲げる濱口さん

学校法人 帯広葵学園
〒080-0022
帯広市西12条南17丁目3　難波ビル2F
TEL 0155-23-7604 ／ FAX 0155-67-5778
URL https://www.obihiroaoi.ed.jp/

帯広の森幼稚園　つつじが丘幼稚園　012青い鳥保育園　緑陽台認定こども園
柳町保育園　駒場認定こども園　012おびもり　あおいキッズランド
あおいとりプラス　東士狩保育所・南中音更保育所・西中音更保育所